

郷土資料館だより

Vol.34 No.1
2011.8.15

市制施行70周年記念企画展 「三四呂人形の見た近代」 開催中

- 開催期間 平成23年6月11日(土)～平成23年9月25日(日)
- 会場 郷土資料館1階展示室

今回の企画展は市制施行70周年記念の第2弾として、三島市が誕生する直前の時代、大正・昭和初期の社会を三四呂人形を通して紹介しています。この時代には野戦重砲兵連隊の駐屯、北伊豆震災とそこからの復興、丹那トンネルの開通と現在の三島駅の開業など今日の三島を語る上で欠かせないできごとがいくつもあった時代でした。

三四呂人形は三島出身の人形作家野口三四郎によって作られた人形たちで、主に紙の張子でできています。三四郎は明治34年生まれで昭和12年に35歳の若さで亡くなっており人形が制作されたのは昭和初期の短い期間ですが、モダンガールのような当時の流行が反映された作品もありますので、それらを通して当時の社会を紹介しています。

三島の歴史を振りかえるのはもちろん、かわいらしい三四呂人形を見るだけでも楽しいと思いますので、小さなお子さんも含めて多くの方にご覧いただきたいと思います。



◇「パラソルさして」紙張子 個人蔵

関東大震災後、東京は近代的な都市として生まれ変わりましたが、三島でも昭和5年(1930)の北伊豆震災からの復興で看板建築に代表される近代的な商店街が出現しました。この「パラソルさして」では水玉のパラソル、しゃれたベレー帽、花柄のワンピースなどを身につけた昭和初期のモダンな若い女性の姿を表現しています。

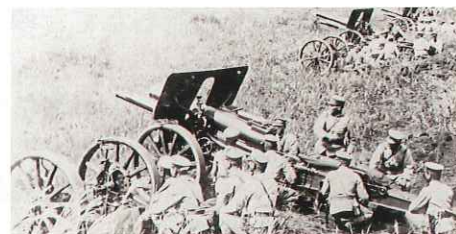
◇「官妓」紙張子 個人蔵

朝鮮の民族衣装を身にまとった官妓の舞踊がモチーフとなった作品です。三四郎は朝鮮博覧会で写真技師として勤めた後、当地の風俗や風景をスケッチしながら旅行しています。そしてこの旅行が人形作家への転機となりました。また、三島にも大正時代には現在の楽寿園に李王世子の別邸があり、海外に「日本」があることが当たり前の時代でした。



◇「パラソル」紙張子 個人蔵

三島には大正9年(1920)以降、現在の文教町に野戦重砲兵連隊2個連隊が駐屯しており、軍都として栄えていました(写真は演習中の第二連隊)。日中戦争・第二次世界大戦中は中国大陸や東南アジア方面で戦い、多くの戦死者を出しています。



三四呂人形が制作された昭和初期は戦争に向かい次第に軍国主義が強まっていく時代でした。しかし、三四郎は「美しい童心がお互いの心の中から日々失せて行く事を思ふと何よりも淋しく悲しまざるを得ない」といって、厳しさを増す世相に抗おうとしたのか子どもや家族を主題にした作品を数多く作りました。



市制施行70周年記念 企画展「写真で振り返る三島の70年」報告

- 開催期間 平成23年 4月17日(日)～ 5月29日(日)
- 会場 郷土資料館1階展示室

昭和16年(1941)の市制施行、昭和24年(1949)の遺伝学研究所開所、昭和38年(1963)の狩野川台風、昭和39年(1964)の石油化学コンビナート進出反対運動、昭和44年(1969)の新幹線三島駅開業、平成13年(2001)のせせらぎ事業整備開始など、様々な困難を乗り越えて市民の力で街をつくりあげてきた三島市の70年間の歴史を振り返りました。70周年を迎えた4月29日には来館者が500人を越え、期間中の来館者は6,272人を数えました。

広報広聴課による同名の映像制作にも協力しており、さくらチャンネルにて約2週間放映されました。また、展示した写真パネルも市制70周年の記念式典など2件のイベントに貸し出し、会場で展示していただきました。今回、郷土資料館以外の場所でも多くの方に展示の内容をご覧いただくことができたことはとてもよかったです。



▲遺伝学研究所



▲石油コンビナート反対運動



▲せせらぎ事業

郷土教室「昔の道具体験」報告

- 開催日 平成23年 6月19日(日)10:00～14:30
- 参加者 約140人
- 会場 郷土資料館前

郷土資料館では食育の日に合わせて、食べ物が食卓に並ぶ前の工程をミニ体験してもらおうと「昔の道具体験」を開催しました。登場したのは、石臼、鯉節削り器、製麺機といった少し昔の道具類です。

楽寿園がグルメまつりで賑わう中、挽きたてのきなこや削りたての鯉節の香りに誘われて、多くの人たちが資料館へも足を運んでくれました。

どの道具を使うのも、子どもにとってはなかなかの力仕事です。周りの声援をうけながら、大きな子も小さな子も真剣な表情でチャレンジしていました。製麺機からおなじみのうどん麺がよきよきと出てくると、「おおっ」という歓声があがりました。会場には家族で立ち寄ってくれた方々が多く、子どもの頃の体験談などを交えながら家族みんなで楽しんでもらえたようです。

さらに今回は、大昔の道具体験として、縄文土器・弥生土器・須恵器の土器片を使った「土器あてクイズ」も企画しました。混ぜこぜになった土器片の山を、色や厚さ、硬さを感じながら3種類に分類していきます。大昔の調理風景に思いを馳せながら「これ本当に本物の？」と土器片を片手に目を丸くする子どもたち。古代の人が実際に使っていたものに触れられる経験はとても魅力的なようでした。



▲製麺機の体験

平成22年度 郷土資料館事業報告

●企画展示

展示テーマ	実施期間	主な展示内容	入館者数
収蔵品展（前期） 三島宿と箱根西坂	7月3日(土) ～8月29日(日)	三島宿資料（浮世絵版画など）、接待茶屋資料（茶釜、関係文書など）、山中城資料（出土遺物、伊豆山中城図など）	6,807人
収蔵品展（後期） 楽寿園	9月18日(土) ～12月5日(日)	梅御殿杉戸絵・戸袋絵、小浜丘之図、李王世子殿下恩賜賞文箱、小松宮彰仁親王筆二行書	17,343人
富士・沼津・三島3市博物館共同企画展 わがまちからの富士山 ～3市対抗富士自慢	12月19日(日) ～平成23年 2月27日(日)	浮世絵「東海道五十三次 三島」、三四呂人形「JAPAN」、俳画「富士山」、日本画「朝焼けの富士」	7,667人

●その他の展示

本町プラザふるさと歴史文学コーナー「東海道と三島宿」展示（平成22年10月末閉設）
生涯学習センター日本文学資料館「茂吉をめぐる歌人たち」展示
三嶋暦師の館 三嶋暦、三嶋暦関係資料の展示（展示替えを実施）
西小学校郷土資料室 小学生向け郷土資料の展示（一部展示替えを実施）

●講座・教室・講演会

講座名	開催日	講師	参加人数
企画展関連講演会 「玄峰・宋淵両大師の風光」	4月4日(日)	龍澤寺住職 後藤榮山老師	一般市民 132人
郷土教室 「機織りを体験しよう」	8月6日(金)	杉山洋子 氏	小学4～6年 10人
ふるさと講座 「富士山伝説の地をめぐる」	11月19日(金)	富士市観光ボランティア ガイドの会 富士市立博物館学芸員	一般市民 24人
郷土教室 「カルタでわかる富士山と三島」	平成23年 2月23日(水)	相原 淳 氏 館職員	小学生 6人

●資料の収集、保管状況 平成22年度末現在収蔵資料総数 29,436点

平成22年度新規受入資料数 246点（内訳：寄贈242点、購入4点）

三島著名商店双六、田方郡三島町市制施行に関する資料、関東震災全地域鳥瞰図絵、鳥瞰図 伊豆名所図会 の4点を購入。

収蔵品デジタルデータベース化事業（国の緊急雇用対策事業を活用）

古書・古文書2,034点、画像27,610点、写真66,136点のデジタルデータベース化を実施。

収蔵品の修復 三四呂人形「五月の賦」及び「北京」（細井繁誠画）を修復。

●刊行物の発行

『花鳥家文書目録』頒布価格600円

『三島宿関係史料集5 濟口証文之写』頒布価格500円

『三島市郷土資料館研究報告4』頒布価格700円

●平成22年度 開館日数313日、入館者数47,363人

郷土資料館改築事業進捗状況報告 Vol.4

郷土資料館では現在、新たな博物館施設の建設事業に取り組んでいます。「より市民に愛される施設」「より多くの市民に郷土を愛してもらうための施設」となることを目指して、ハードのみならずソフト事業の充実も図るため、市民の皆さんの知恵や力を活かしたボランティアの組織づくりを進めていこうと計画しています。

今号では、3月に開催したボランティア養成に向けての意見交換を主としたワークショップと、そこでの提案を受けて7月に開講したボランティア養成講座の概要を報告します。

報 告

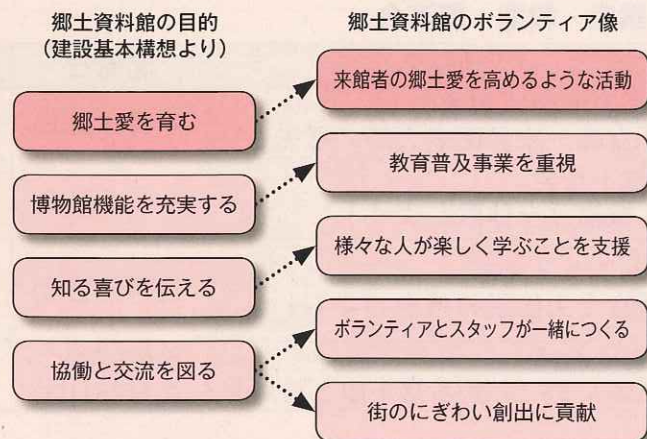
ボランティア講座ワークショップ「はじめの一步！～みなさんの意見を聞かせてください」

- 開催日 平成23年3月5日(土)、27日(日) 13:30～16:30
- 会場 市民文化会館及び郷土資料館
- 参加者 1日目：37人、2日目：18人

1日目の前半は、館職員から参加者の皆さんに、改築事業の経緯や内容、ボランティア講座についての館の考え方などについて説明しました。後半は、郷土資料館の展示や収蔵庫内を見学していただき、「郷土のお宝」と思えるものを発見してもらいました。

2日目はグループワークを行いました。前半は「こんな資料館だったらいいな」というイメージをふくらませる作業を行い、後半にそのイメージを実現するために必要な活動やその活動を支える人について提案していただきました。

提案からは、「今まであまり郷土資料館や博物館などに来たことがなかった人にも来てほしい」「わかりやすさ、楽しさ、発見による感動を提供する」などが方向性として見えました。また、ボランティア活動の内容としては、利用者に直接働きかけるような活動に関心が集まっていることがわかりました。



ボランティア養成講座の概要

- 開催期間 平成23年7月10日(日)～平成24年3月11日(日) 全10回
- 会場 市民生涯学習センター、郷土資料館ほか
- 内容 三島の歴史・民俗・自然の講義、博物館学芸業務の体験、グループワークなど
- 受講者 39人(男性16人・女性23人)

三島市では、三島駅周辺グランドデザインの策定を進めています。駅周辺の将来像を明確にし、まちのイメージを市民の皆さんと共有しながら、まちづくりの方向性を明らかにすることで、駅周辺の活性化を図り、さらには中心市街地の発展につなげることを目的としています。郷土資料館改築事業についても、駅周辺で計画されている事業の一つとして関係団体からのヒアリングやアンケートなどを実施し、市民の皆さんの意向把握に努めているところです。その中では、改築事業に対して賛否両論、様々なご意見があります。今後は年内を目途に、郷土資料館のあり方について検討を重ねたうえで、施設整備を行ってまいります。

伊豆半島ジオパーク構想と郷土資料館改築事業 Vol.2

前回、伊豆半島の自治体で推進している「伊豆半島ジオパーク構想」について、取り組みの現状や今後の予定、三島市に係わる地理的な枠組み（ジオエリア）と見どころとなる場所（ジオサイト）、郷土資料館との関連についてご紹介しました。今回はこれに引き続き、三島・沼津エリアのジオサイトの一つである「三島溶岩流と湧水」についてご紹介しましょう。

三島溶岩流は、今から約1万7千年前から約1万年前にかけて、新富士火山から噴出した溶岩が、箱根火山と愛鷹山の間にあった古黄瀬川にそって約40kmもの距離を流れ下り、その先端が三島に到達したものです。新富士火山の溶岩は玄武岩で粘りけが少ないため、溶鉱炉の溶けた鉄のように次から次へと流れ出したのです。その温度は約1,200℃で、速さは毎分1,500mと試算されています。昭和57年に実施された小浜池のボーリング調査によれば、小浜池の北西では溶岩の厚さが75m以上で大きく3層に分かれ、層間は砂礫層で地下水が流れていること、小浜池の東側は溶岩の厚さが約40mで、溶岩の下にはローム層のあることがわかりました。このことから、池の西側に深い古黄瀬川が存在することと、池の東側に箱根山から延びた尾根が埋没していることが明らかになりました。湧水はこの砂礫層や溶岩流内部のすき間を流れてきた地下水が、溶岩の末端部から湧出するものと考えられています。

ジオサイトとしては、長泉町のJR下土狩駅近くの黄瀬川に「鮎壺の滝」があります。厚さ約10mの三島溶岩流の岩盤と溶岩樹型の丸い穴、溶岩下に愛鷹山のローム層も見られ、三島溶岩流観察の一等地です。また、長泉中学校近くの「稲荷神社」の境内には大きな溶岩塚が残され、現在では残り少ない溶岩塚の典型的な姿を見ることが出来ます。一方、三島市街地では、「菰池・鏡池・楽寿園・白滝公園・浅間神社」などで溶岩と湧水、「楽寿園・白滝公園」で縄状溶岩が観察できます。また、JR三島駅北口や三島北高等学校の「紫苑の森」でも溶岩の断面が見られるほか、三島駅北に溶岩洞窟である「三島風穴」があります。現在、見学することは出来ませんが、将来、整備され見学が可能になれば、伊豆半島を代表する第1級のジオサイトとなるでしょう。



▲楽寿園の縄状溶岩



▲鮎壺の滝（駿東郡長泉町）



▲稲荷神社の溶岩塚（駿東郡長泉町）



▲白滝公園の溶岩と湧水

寄 贈 資 料 紹 介

平成23年4月から7月にかけて、次の方々から寄贈の協力をいただきました。ありがとうございました。(順不同)

鈴木隆幸氏 (沼津市)	『甲陽軍鑑』 『北条九代記』 伊勢暦 新式鉄道旅行地図	22冊 8冊 1点 1点
石川英幸氏 (清水町)	ドウコ缶 点字の本 戦前・戦中の手紙など	2点 3箱 1箱
そ の 他	張子 (和田金剛作) 車長持	6点 1点



▲車長持



▲張子 牛



▲張子 羊



▲張子 馬

平成23年度郷土資料館職員の紹介

館長 鈴木敏中

職員 石井章代、石間可奈子、平林研治、笹山曜子、小田知里、大川裕代

収蔵庫等の燻蒸のため、臨時休館します

大切な郷土資料などを虫・カビ等の被害から保護するため、収蔵庫等の燻蒸を実施します。これにともない、10月3日(月)～10月10日(月)の間は、郷土資料館は臨時休館となります。休館中のご連絡は、三島市教育委員会文化振興課(電話055-983-2672)へお願いします。

【編集後記】

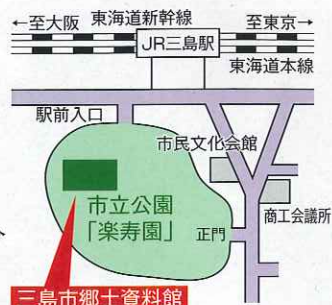
昭和53年8月に「郷土館だより」第1号を発行して以来33年、おかげさまで「郷土資料館だより」通巻100号を発行することができました。開館40周年も迎える今年は、大きな節目の年です。職員一同、気持ちを新たにして郷土・三島の魅力を発信していきます。(I)

利 用 案 内

- 休館日
毎週月曜日
(祝日の時は翌日)
12月27日～1月2日

- 開館時間
午前9時～午後5時
(4/1～10/31)
午前9時～午後4時30分
(11/1～3/31)

- 入館無料
(ただし、楽寿園入園の際に有料)



●三島駅(南口)から徒歩5分。
市立公園楽寿園内

郷土資料館だより vol.34 No.1 (第100号)

発行日 平成23年(2011)8月15日
(年3回発行)

編 集 三島市郷土資料館
〒411-0036
静岡県三島市一番町19-3 楽寿園内
TEL 055-971-8228
FAX 055-981-3730

E-mail: kyoudo@city.mishima.shizuoka.jp
URL: http://www.city.mishima.shizuoka.jp/kyoudo/
発 行 三島市教育委員会